



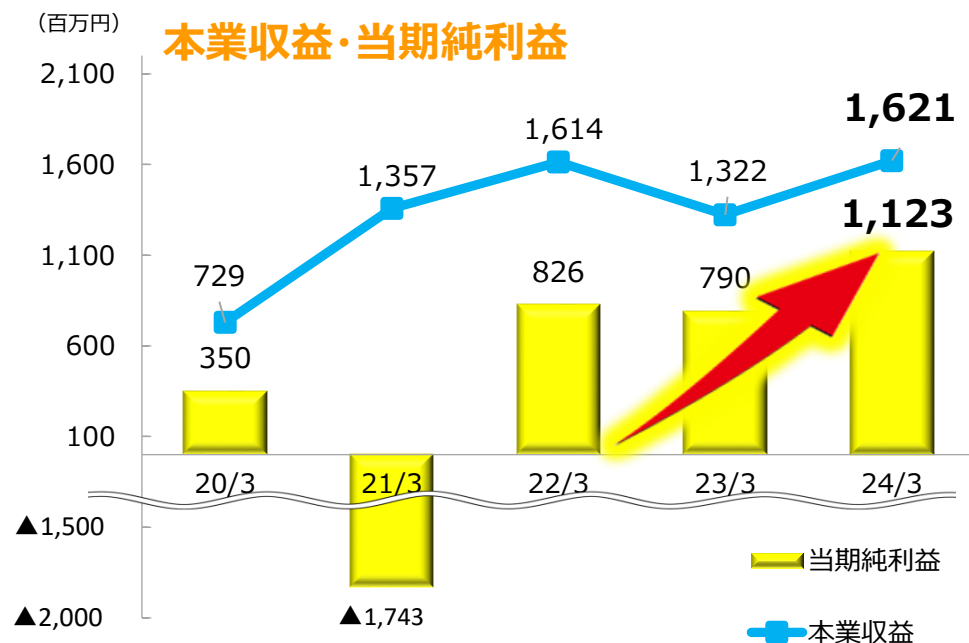
# 2023年度（2024年3月期） 決算の概要

1. 決算トピックス	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 決算の概要	・ ・ ・ ・ ・	7
3. 次世代バンキングシステム	・ ・ ・ ・ ・	13
4. SHINふくぎん 中期経営計画	・ ・ ・ ・ ・	21
5. 決算予想および今後の見通し	・ ・ ・ ・ ・	29
当行のプロフィール	・ ・ ・ ・ ・	33



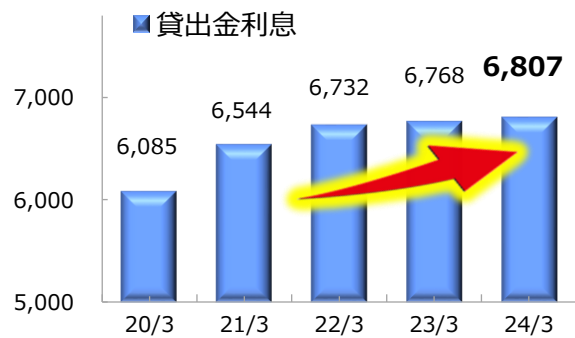
# 1. 決算トピックス

# 1.決算トピックス (本業収益・当期純利益)

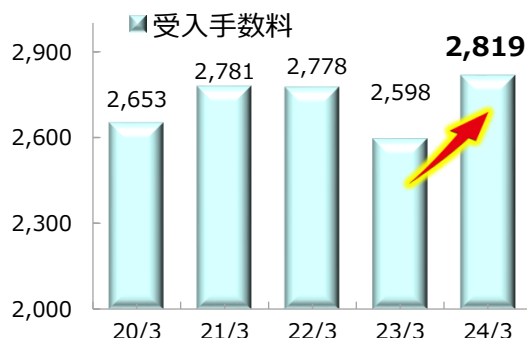


**2023年度は単体で増収増益！**  
**本業収益・当期純利益ともに増益！**

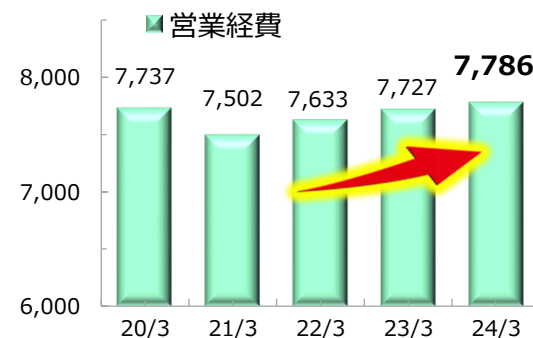
- ・ 次世代バンキングシステム関連費用の増加により、営業経費が増加するも、貸出金利息および受入手数料が増加し増益となりました
- ・ なお、連結では増収減益（微減）



- ・ 住宅ローン・消費者ローンの増加により貸出金利息が増加



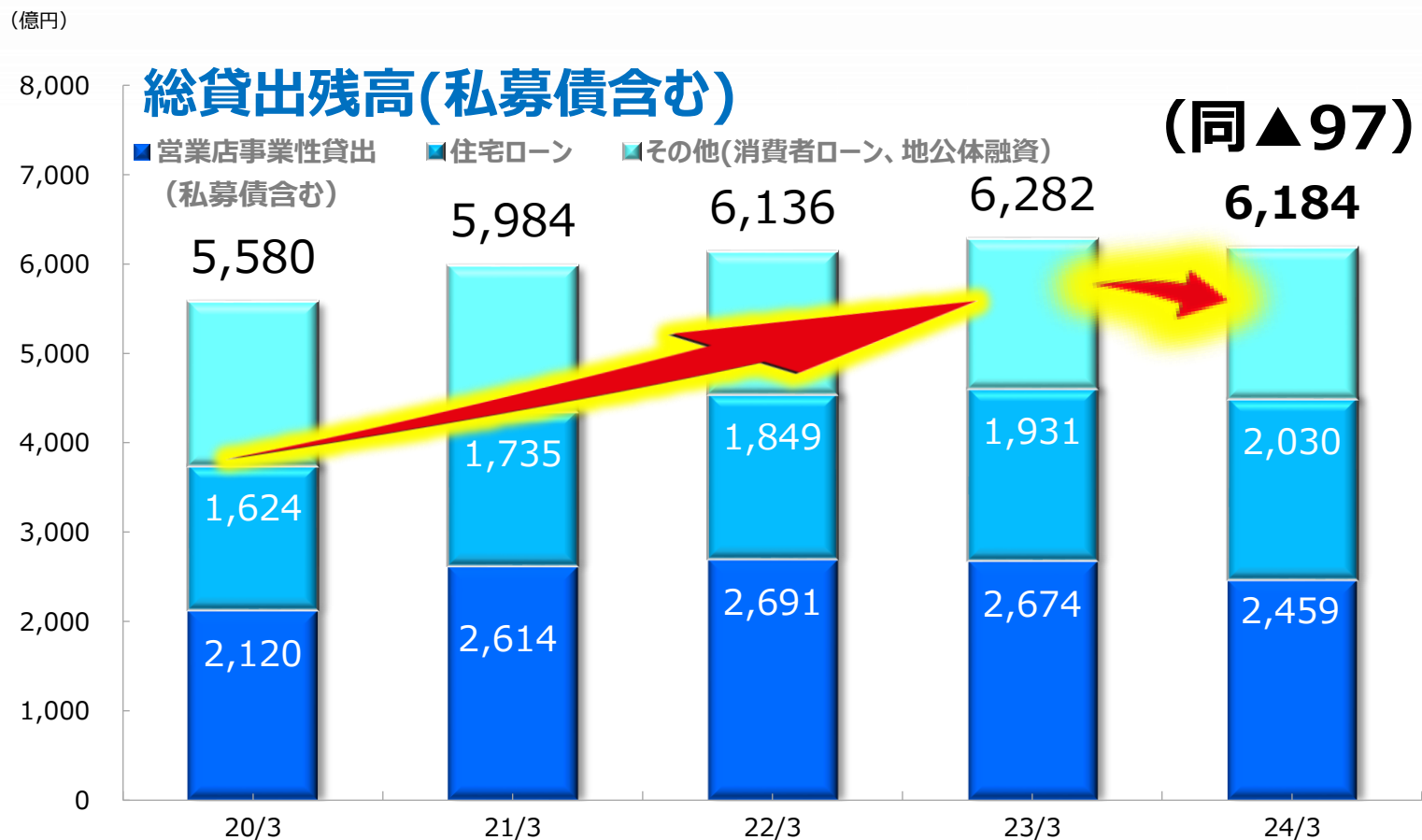
- ・ 預かり資産の販売が好調に推移した他、融資関連手数料が増加したことにより受入手数料が増加



- ・ 次世代バンキングシステム関連費用の増加により営業経費は微増

## 総貸出残高(私募債含む)は、6,184億円(前年度比▲97億円減少)

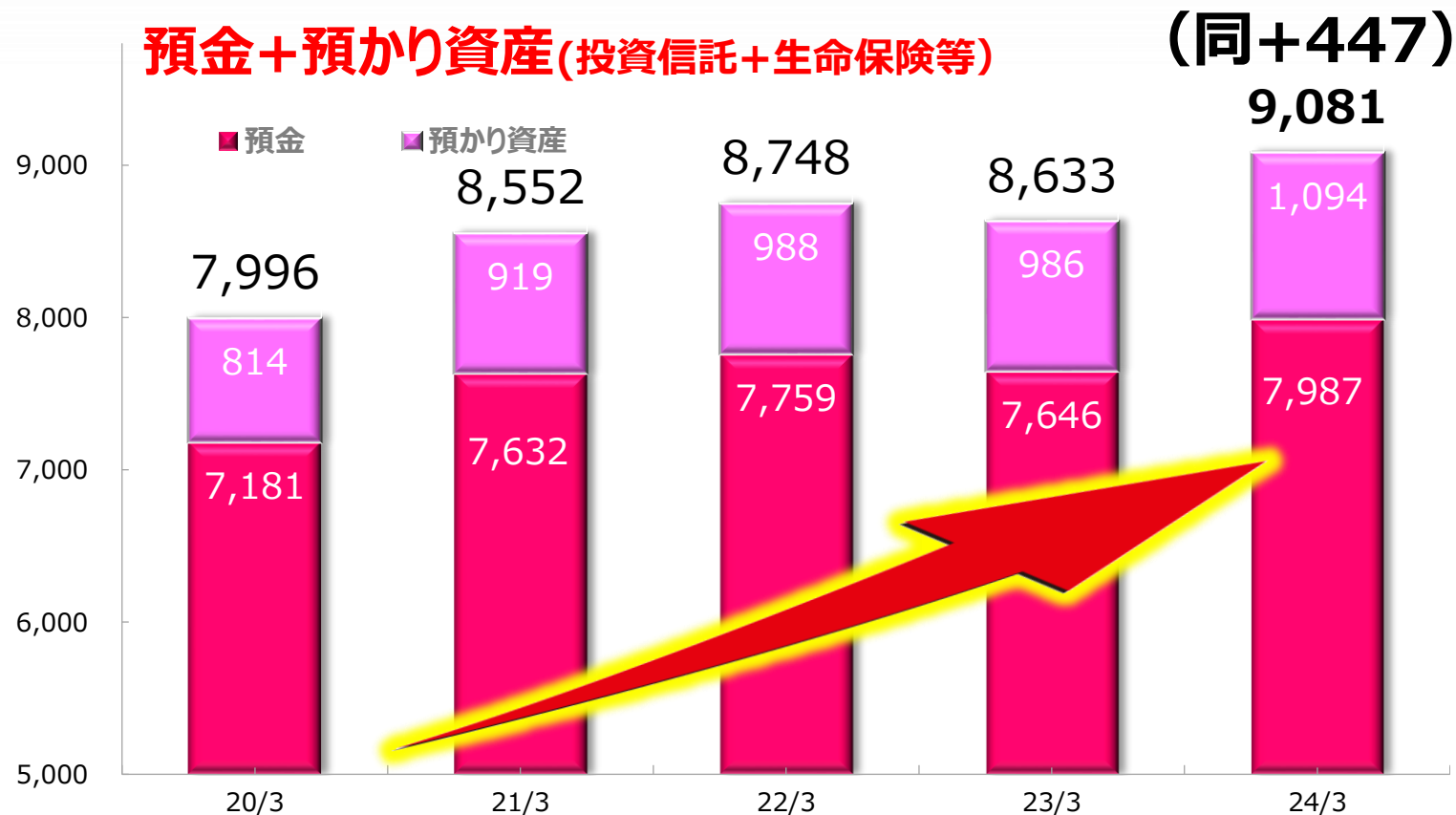
- ・ 営業店事業性貸出残高(私募債含む)は、同2,459億円と、コロナ関連融資の返済などが進み▲214億円減少
- ・ 住宅ローンはソリューションプラザ・ローンプラザを中心に推進し、過去最高の2,030億円と同+99億円増加



## 総預かり資産(預金+預かり資産)の残高は、9,081億円(同+447億円増加)

- ・ 総預金は7,987億円と、地公体預金・法人預金を中心に同+340億円の増加
- ・ 預かり資産は保険販売と投資信託の販売が好調に推移し、1,094億円と同+107億円の増加

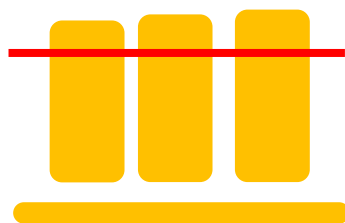
(億円)



## 「ふくぎん 福島創生プロジェクト」最終年度数値目標は **全項目達成!!**

2023年度 (2024年3月期) 目標

### 本業収益



# 10億円

10億円以上の安定した  
本業収益を確保する

### OHR



# 4% 改善

2020年3月期対比  
OHR4%の改善を図る

※ 2020年3月期OHR実績83.91%(単体ベース)  
※ OHR(経費率) = 営業経費 / 業務粗利益  
(日銀特別当座預金制度に基づくOHR)

### 事業性融資先



# 6,000先

うちメイン先1,250先  
以上を目指す

※ メイン先：融資シェア1位をメイン先と定義

2023年度 (2024年3月期) 実績

# 16億円

実績 77.29%

# 7.88%改善

うちメイン先1,281先

# 6,071先



## 2. 決算の概要



## 2.決算の概要 (2024年3月期の実績)

### 単体

(億円)

	24/3	23/3	前年度比
1 経常収益 (①+⑦)	109	105	3
2 業務収益①	106	103	3
3 貸出金利息	68	67	0
4 有価証券利息配当金⑦	9	7	1
5 (A)投信解約益	-	-	-
6 受入手数料	28	25	2
7 国債等債券売却益②①	-	-	-
8 業務費用③	88	90	▲2
9 一般貸倒引当金繰入④	▲3	▲0	▲2
10 国債等債券売却損・償還損・償却⑤②	0	0	0
11 営業経費	77	77	0
12 人件費	35	35	▲0
13 物件費	36	35	0
14 業務純益⑥ (①-③ (金銭の信託見合費用除く))	18.4	12.9	5.5
15 (B)コア業務純益 {⑥- (②-⑤) +④}	16.2	13.2	2.9
16 本業収益 (投信解約損益除くコア業務純益) (B)-(A)	16.2	13.2	2.9
17 臨時収益⑦	3	2	0
18 株式等売却益①	0	-	0
19 償却債権取立益	0	0	▲0
20 臨時費用⑧	7	5	1
21 個別引当金繰入額	6	3	2
22 株式等売却損・償却④	0	0	0
23 臨時損益⑨ (⑦-⑧)	▲4	▲2	▲1
24 経常利益 (⑥+⑨)	14.4	10.2	4.1
25 特別損益	▲0	▲0	▲0
26 法人税等	3	2	0
27 当期純利益	11.2	7.9	3.3
28 不良債権処理費用	3.0	3.3	▲0.3
29 有価証券関係損益 (⑦+①-②+③-④)	8.8	7.0	1.8

### 24年3月期 損益状況

24年3月期は単体で**増収増益**の決算  
本業収益・当期純利益ともに増益となりました

- 業務収益は106億円。前年度比3億円の増収
  - ・ 貸出金利息は、貸出金利回りが同0.002%低下したものの、貸出金平残が43億円増加したことにより、同+38百万円
  - ・ 有価証券利息配当金は利回りが同0.085%上昇し、平残が18億円増加したことから同+1億円
  - ・ 受入手数料は、保険窓販手数料、投信販売手数料、融資関連手数料が増加し、同+2億円
- 業務費用は88億円と、同▲2億円の減少
  - ・ 一般貸倒引当金繰入はコロナ関連引当金の戻入の影響により、同▲2億円減少
  - ・ 営業経費のうち物件費は次世代バンキングシステム関連費用の増加により同+86百万円増加
- コア業務純益及び本業収益は16.2億円 (同+2.9億円) とともに増益
- 経常利益は14.4億円 (同+4.1億円) 当期純利益は11.2億円 (同+3.3億円) とともに増益
- 受入手数料 (同+2億円)、有価証券利息配当金 (同+1億円) および貸出金利息 (同+38百万円) の増加により、経常収益は同+3億円の増収  
当期純利益は同+3.3億円の増益となった

## 2.決算の概要（貸出<私募債含む>）

- 貸出残高（私募債含む）は、6,184億円。前年度比▲97億円の減少
  - ・ 事業性貸出（私募債含む）は、新型コロナウイルス関連融資の返済により▲191億円の減少
  - ・ 消費性貸出については、住宅ローン実行の増加により、同+88億円の増加
  - ・ 事業性融資先数は中期経営計画の最終年度数値目標6,000先に対し、6,071先と目標達成
- 貸出平均約定金利は、住宅ローン貸出金利が0.90%と低下するも、横這いで推移

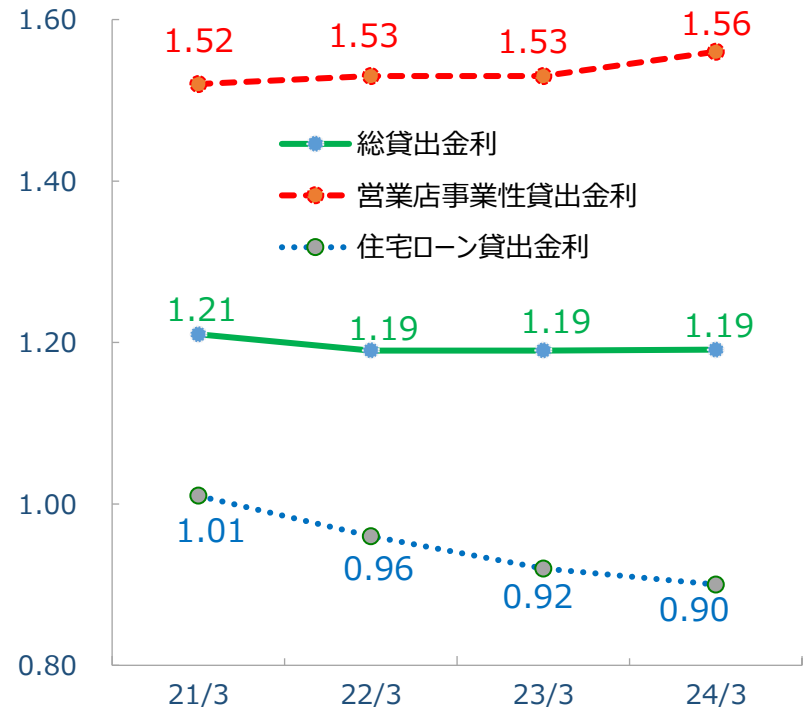
### 貸出 残高推移

(億円)

	21/3	22/3	23/3	24/3	前年度比
事業性	3,028	3,097	3,072	<b>2,880</b>	▲191
営業店	2,258	2,281	2,236	<b>2,094</b>	▲141
私募債	355	409	438	<b>365</b>	▲73
本部	414	406	398	<b>420</b>	22
消費性	2,012	2,120	2,207	<b>2,295</b>	88
住宅ローン	1,735	1,849	1,931	<b>2,030</b>	99
消費者ローン	221	220	229	<b>220</b>	▲8
消費性その他	56	50	46	<b>44</b>	▲2
地公体	808	800	921	<b>907</b>	▲13
その他	135	117	81	<b>101</b>	19
合計	5,984	6,136	6,282	<b>6,184</b>	▲97
平 残	5,791	6,019	6,157	<b>6,186</b>	28
事業性融資先数	5,555	5,639	5,617	<b>6,071</b>	454

### 貸出平均約定金利

(%)



## 2.決算の概要 (預金<NCD含む>・預かり資産)

- 預金と預かり資産を合わせた総預かり資産残高は、前年度比+447億円増加し、9,081億円  
・うち預金残高は、+340億円増加し、7,987億円。預かり資産残高は、+107億円増加し、1,094億円
- 預かり資産の販売額は、好調な相場環境により投信販売額が同+29億円増加、保険は同+65億円の増加
- 預かり資産の販売手数料は、投資信託・保険販売額の増加により同+2.6億円増加し、11.6億円

### 預金+預かり資産の残高推移

(億円)

	21/3	22/3	23/3	24/3	前年度比
預 金	7,632	7,759	7,646	<b>7,987</b>	340
個人	5,032	5,025	4,990	<b>4,961</b>	▲28
法人	2,109	2,199	2,068	<b>2,107</b>	39
地公体	450	470	483	<b>695</b>	212
預かり資産	919	988	986	<b>1,094</b>	107
投 信	362	413	403	<b>446</b>	42
保 険	530	551	562	<b>628</b>	65
公共債	27	22	20	<b>19</b>	▲0
合 計	8,552	8,748	8,633	<b>9,081</b>	447

### 預かり資産 販売額推移

(億円)

	21/3	22/3	23/3	24/3	前年度比
投 信	171	209	136	<b>165</b>	29
保 険	111	74	92	<b>157</b>	65
公共債	2	1	2	<b>5</b>	2
合 計	285	285	231	<b>328</b>	97

### 預かり資産 販売手数料推移

(※SBIマネープラザ手数料を含む)

(億円)

	21/3	22/3	23/3	24/3	前年度比
合 計	11.4	11.5	8.9	<b>11.6</b>	2.6

## 2.決算の概要 (有価証券)

- 有価証券の残高は1,559億円 (前年度比▲23億円の減少)
  - ・ 債券中心の元本毀損リスクの低いインカム運用方針を継続
  - ・ 期日償還等により債券残高が減少
- 有価証券の評価損益は▲66億円 (同0億円のほぼ横ばい)
  - ・ 急激なマーケットの変動 (金利上昇等) により債券の評価損が拡大も、株式及び投資信託の評価損益が改善し全体では横ばい
  - ・ 市場動向を注視し、安定的な収益を確保するとともにポートフォリオのリスクを抑制
  - ・ SBIグループと引き続き連携し、有価証券ポートフォリオの状況や課題を共有し健全化に努める
- 債券のデュレーションは7.9年 (同1.1年の短期化)

### 有価証券 残高推移

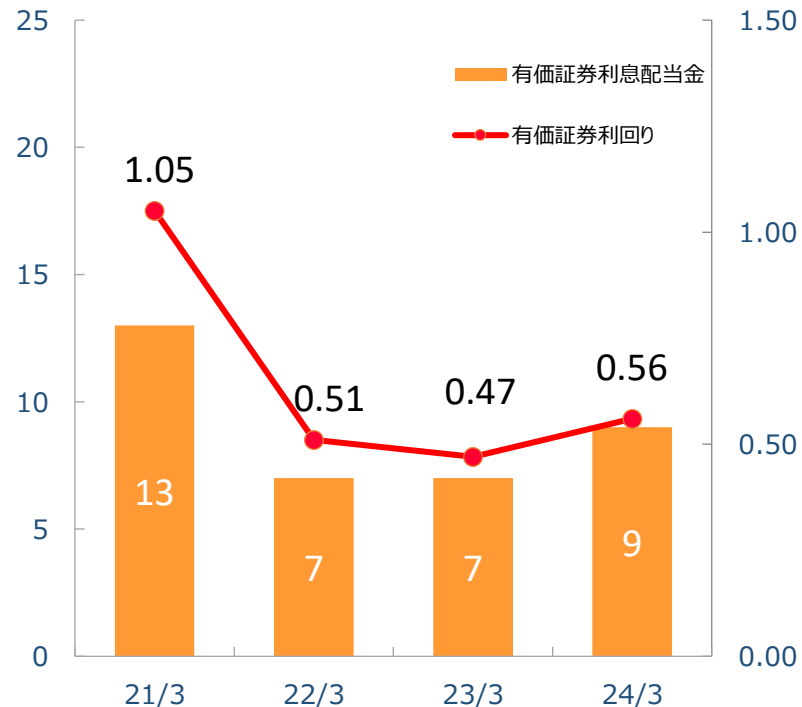
(億円)

	21/3	22/3	23/3	24/3	前年度比
債券	745	867	911	860	▲50
国内債	709	844	891	851	▲40
外国債	36	22	19	8	▲10
投資信託	675	649	618	638	19
外債型	675	649	618	624	5
株式型	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	14	14
株式	21	20	20	20	▲0
その他	13	23	32	40	8
合計	1,455	1,560	1,583	1,559	▲23
保有有価証券の 評価損益	3	▲28	▲66	▲66	▲0
債券の デュレーション (年)	9.6	9.7	9.1	7.9	▲1.1

### 有価証券利息配当金と有価証券利回り

(億円)

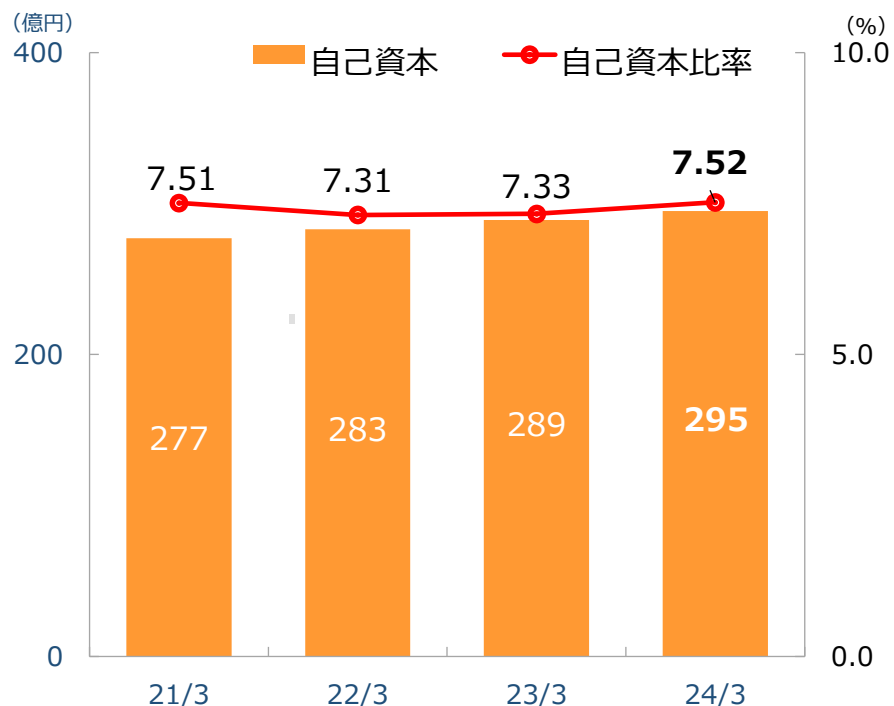
(%)



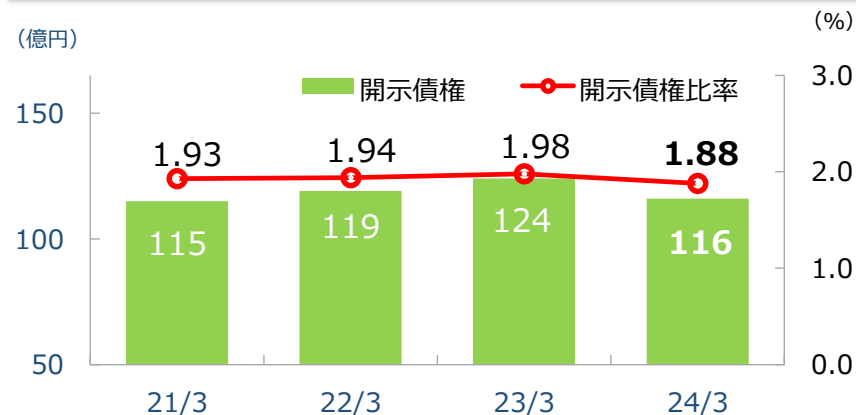
## 2.決算の概要 (健全性)

- 自己資本比率は、利益の計上により7.52%（前年度比+0.19%）と上昇、国内基準（4%以上）を上回る水準を維持。連結自己資本比率は7.89%（前年度比+0.15%）
- 金融再生法開示債権は、116億円（同▲7億円）  
金融再生法開示債権比率は、1.88%（同▲0.10%）と低水準を維持
- 与信関連費用は、3億円（同▲0.3億円の減少）

### 自己資本比率



### 金融再生法開示債権比率



### 与信関連費用

(※) 一般貸倒引当金繰入額 + 個別貸倒引当金繰入額  
+ 貸出金償却等 - 貸倒引当金戻入額

期	21/3	22/3	23/3	24/3	前年度比
与信関連費用 (億円)	10.3	9.5	3.3	3.0	▲0.3



### 3. 次世代バンキングシステム

## SBI、フューチャーアーク外、福島銀行の3社にて 次世代バンキングシステムを開発！2024年カットオーバー予定！



### 次世代バンキングシステムの特徴

- ・システムを**ゼロベース**で構築。データ構造が**シンプル**だから**お手続きもシンプル**に！
- ・**フルオープンAPI**により外部接続が簡単・早く！**最新の金融商品・サービス**に対応可！
- ・銀行業務を紙から**デジタルベース**へ変革、コストの削減など**業務効率化**を図る

## 次世代バンキングシステムで 銀行取引がスマートに！

① 銀行窓口をもっと便利に！

② タブレットを使ってもっと便利に！

③ スマホを使ってもっと便利に！

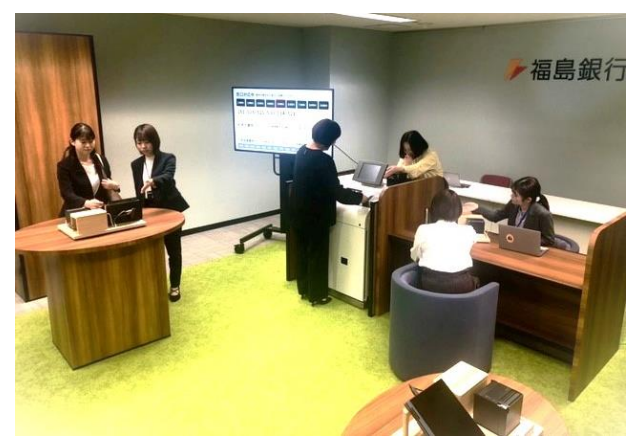


## ① 銀行窓口をもっと便利に！

### 営業店はこう変わります！（イメージ）



- ・書類が多く、保管するのも大変！
- ・専用端末がたくさん並び、場所をとっています



- ・ペーパーレスで紙資源を削減します！
- ・スッキリした店舗でお客さまはゆったりと

**伝票記入不要・印鑑不要！！**  
**通帳レスのお取引も可能**



**タブレットでスピーディーにお取引！！**  
**待ち時間ゼロを目指します！**



## ② タブレットを使ってをもっと便利に！

### タブレットと勘定系が直結！セミセルフ取引が実現！



**プリンタ**  
 ・取引内容入力が完了すると、QRコードが発行されます



・タブレットセット（取引内容の入力や本人確認を行う）



・セルフキャッシャー（現金取引を行う）



**QRコードリーダーで読み取り**  
 ・タブレット操作により発行されたQRコードをセルフキャッシャーに読み込ませると入出金が可能

### 本人確認書類を読み取り、 入力を省略し口座開設は15分程度で完了！



**本人確認書類読取**  
 ・タブレット裏面にはカメラを搭載。  
 本人確認書類を読み取り、入力の  
 手間を省きます

### 振込手続きも過去の履歴から選ぶだけ！

### ATMの振込カードは不要に！



③ スマホを使ってもっと便利に！

## バンキングアプリがもっと便利に!!

目的別に口座を作成いただける新サービス!!

<家計簿>

<教育積立>

<旅行積立>



各種申込みや内容の確認を手のひらで!!



- ローンお申込みや毎月の引き落とし金額の照会が可能に
- 投信・保険のお取引状況の照会も可能に
- STEP1でセキュリティも一層強化

全国のコンビニATMで  
スマホだけで現金引き出しが可能!!



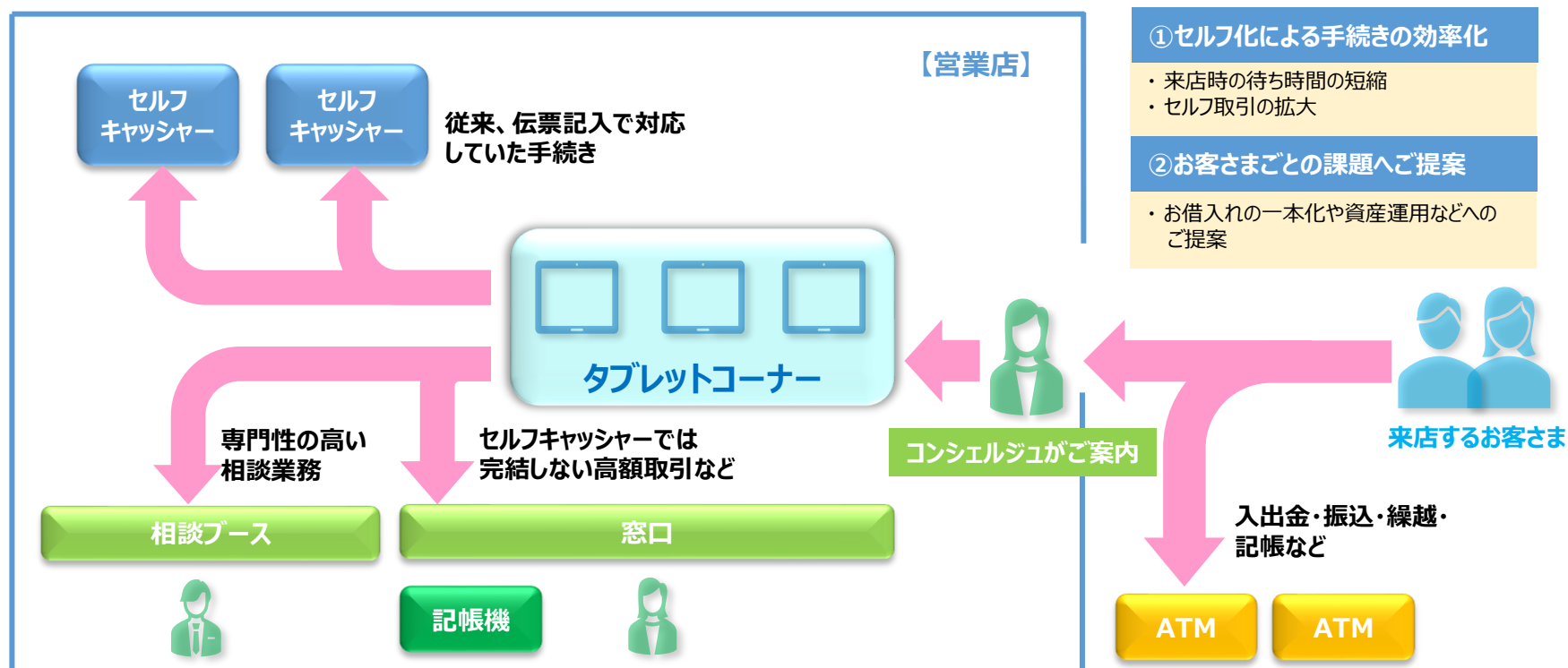
ご家族情報をお届けいただくと  
うれしいサービス!!

- ご家族間の振込手数料を優遇!!
- お客さまのライフイベントに応じて、タイムリーにお役に立つ情報をお届けします



## 営業店イメージ

- ・ タブレット導入により、**セミセルフ事務の拡大**を目指す！（コンシェルジュがお客様をご案内します）
- ・ **お客様の待ち時間解消、伝票レス・印鑑レス化を実現！**  
将来的には通帳レスを目指す（稼働後も通帳をご利用いただけます）
- ・ 窓口の預金業務を**50%効率化！** ⇒ **お客様の利便性向上・事務負担、事務ミスの削減、営業力強化へ**



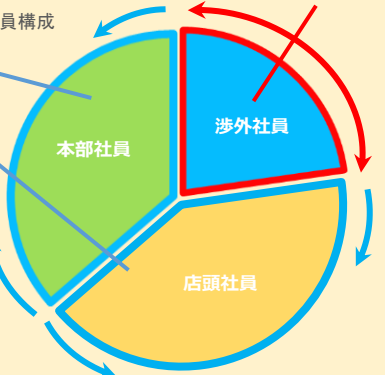
「デジタル」のチカラで窓口の預金業務を**50%効率化!**

▶ お客さまと対面し、課題解決（コンサルティング業務）に取り組む人員を増加!

### 今までの銀行

デジタル化により業務を効率化

人員構成




本部社員  
店頭社員  
渉外社員

コンサルティング業務を拡大

- 業務の多様化による事務量の増加
- お客さま課題解決への提案と事務の両立
- 伝票など紙ベース資料の整理保管

### これからの銀行

人員構成



本部社員  
店頭社員  
渉外社員

- スマホで出来る事はDX、**お客さま利便性向上!**
- 銀行員はお客さまの**課題解決**に全力投球!
- 対面（リアル）は**付加価値の高い**業務へ!

**人がやるべき業務を再定義!**  
**地域の発展にさらに貢献できる地域金融機関へ!**



## 4. SHIN

### ふくぎん中期経営計画

(計画期間 2024年4月～2029年3月)

## 基本方針

# 「デジタル」のチカラで「リアル」の力を最大化

## 基本戦略

### DX (デジタル)

次世代バンキングシステムを最大限に活用し、徹底的に業務の**DX化（デジタル）**を図ります。リテールビジネスは**スマホで完結**。お客さま利便性の向上を目指します

### 対面営業 (リアル)

事務量の半減により、**本部から営業店へ、店頭から渉外へ**人員を再配置します。**対面（リアル）**での「**事業者支援**」と「**資産形成支援**」に人的資源を集中します

### 人材開発

エリアでの営業体制を構築し、人材育成に注力します。対面営業の**質的・量的向上**を目指し、**コンサルティング力**に優れた人材の育成を図ります

※ リテールビジネス  
預金・ローン・資産運用など

## SHINふくぎん 中期経営計画 行動指針



DXを推進し、**新**たなサービスなどお客さま利便性の向上を図ります

お客さまとの**深**いコミュニケーションを通じて、伴走支援を強化します

お客さまの課題に真摯に向き合い、**信**頼される人材の育成に取り組みます

自由な発想でビジネスモデルの**進**化を図り、持続可能な社会の実現に貢献します

地元福島の実現に貢献できる**真**のリージョナルバンクを目指します



## 現状

今まではデジタルでの完結は一部、多くの業務をマンパワーに依存していたため、リアル（対面営業）の比重が高く、コンサルティング力が弱い

### 【デジタル】

#### 一部個人取引（ローン・資産形成）

- ・ローンWeb完結
- ・投資信託Web取引

#### 一部法人取引

- ・法人インターネットバンキング

#### 住宅ローン

- ・SP/LPの活用
- ・Web受付

#### デジタル化支援

### 【リアル（対面営業）】

#### 個人取引（預金・ローン・資産形成）

- ・銀行窓口/渉外行員
- ・SBIマネープラザとの協働

#### 法人取引

- ・銀行窓口/渉外行員

#### 法人コンサルティング

- ・ビジネスマッチング
- ・有料職業紹介事業
- ・事業計画策定支援

#### 事業再生支援

- ・事業再生計画策定支援
- ・個人再生おとりまとめ融資

SHIN

今後は、コンサルティング業務以外は極力デジタルで完結！

リアル（対面営業）によるコンサルティング業務に注力し、お客さま価値の向上を図る

【デジタル】

【リアル（対面営業）】

### 個人取引（預金・ローン・ネット資産形成）

- ・バンキングアプリ
- ・次世代バンキングシステム
- ・投資信託Web取引

### 法人取引

- ・法人インターネットバンキング
- ・次世代バンキングシステム

### 住宅ローン

- ・SP/LPの拡充
- ・Web受付

### デジタル化支援

### 法人コンサルティング

- ・ビジネスマッチング
- ・コンサルティングファイナンス
- ・有料職業紹介事業
- ・事業計画策定支援

### 対面資産形成支援

- ・コンサルティングアドバイザー
- ・SBIマネープラザとの協働

### 事業再生支援

- ・事業再生計画策定支援
- ・個人再生おとりまとめ融資

「デジタル」のチカラで  
「リアル」の力を最大化

## 「デジタル」のチカラで「リアル」の力を最大化するための4つの主要施策

### 事業者支援

#### ● 伴走支援の強化

本部と営業店による「お客さま課題解決ミーティング」を継続し、「計画作成支援」や「ふくぎんBMS」など伴走による事業者支援を強化します

#### ● コンサルティングファイナンス

お客さまとの対話を通じて顕在化した課題に応じた「完全オーダーメイド型融資」を積極的に実施します

### 資産形成支援

#### ● 住宅ローンの強化

ソリューションプラザ(SP)、ローンプラザ(LP)の機能を拡充し、住宅ローンを積極的に推進することで福島県民の住宅取得を後押しします

#### ● 個人再生おとりまとめ融資

多重債務に苦しむお客さまとの対話を重ね、債務をとりまとめるなど生活再建を提案し、住宅など資産の継続保有を応援します

#### ● コンサルティングアドバイザー(CA)の配置

拠点に資産運用提案に秀でたCAを配置します。地域のお客さまの資産形成のお手伝いのリーダーを各地区に配置、個人のお客さまを担当するリテールサービス課社員を育成します

### デジタルトランスフォーメーション

#### ● ビジネスモデルの転換

次世代バンキングシステムを最大限に活用したビジネスモデルを構築します。タブレットの利用による窓口手続きの簡素化やアプリの充実によるお客さま利便性の向上、生成AI・ビッグデータの活用など業務の効率化・高度化を推進します

#### ● DXの徹底

「本部専担者とのWeb相談」など1人1台配布されているPCやスマホを活用した営業活動、生成AIを利用したFAQなど業務の効率化、ペーパーレス化やWebミーティング利用など経費の削減を図り、お客さま利便性の向上と業務の効率化・高度化を図ります

### 人材開発

#### ● 人材育成

増員する渉外社員を早期に育てる「人材開発部」を設置。お客さまの課題に真摯に向き合い、信頼される人材を育成します

#### ● 人事制度の見直し

店舗戦略、本部のスリム化など組織変更に合わせ、人事制度を見直します

#### ● エンゲージメントの向上

お客さまや地域の役に立つ成功体験を重ねることで成長し、福島銀行の社員であることを誇りに思える企業風土を全役職員で醸成します

## 中計最終年度(2029年3月期)数値目標

項 目	2029年3月期 最終年度目標
自己資本比率 (単体)	<b>8%以上</b>
本業収益 (当期利益)	<b>20億円以上 (13億円以上)</b>

### 金融仲介機能の発揮

事業者支援先数 <sup>※1</sup>	<b>7,000先</b>
資産形成支援先数 <sup>※2</sup>	<b>40,000先</b>

※1 事業者支援先数：融資極度枠保有先や私募債利用先などを含む与信先数

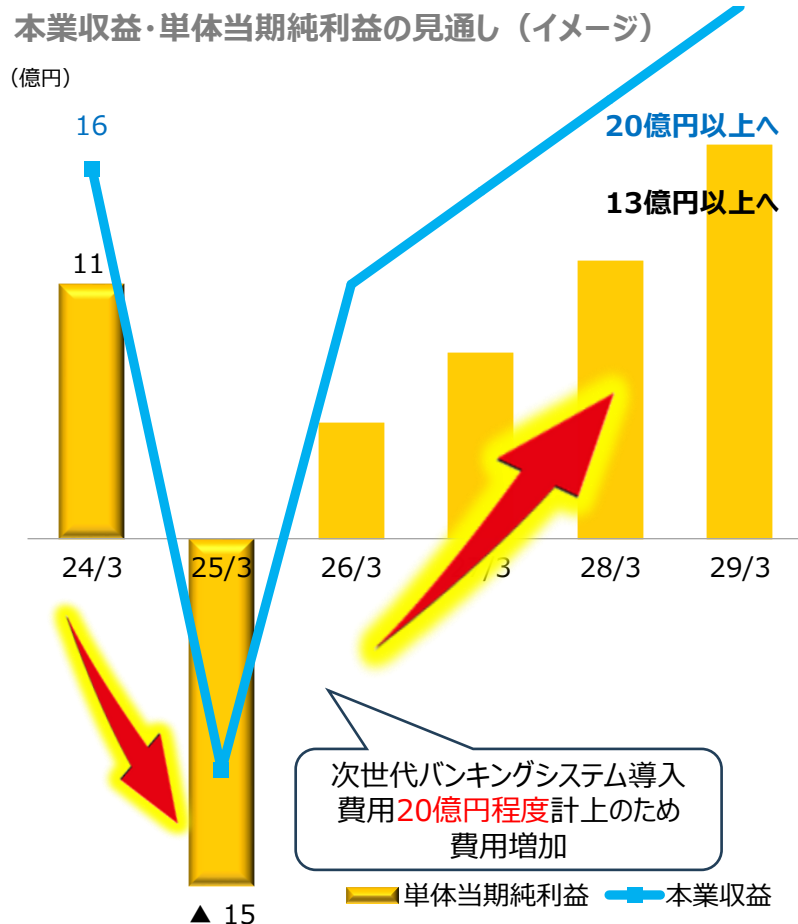
※2 資産形成支援先数：住宅ローン利用先、個人再生おとりまとめ融資利用先、預かり資産利用先数



## 5. 決算予想および

今後の見通し

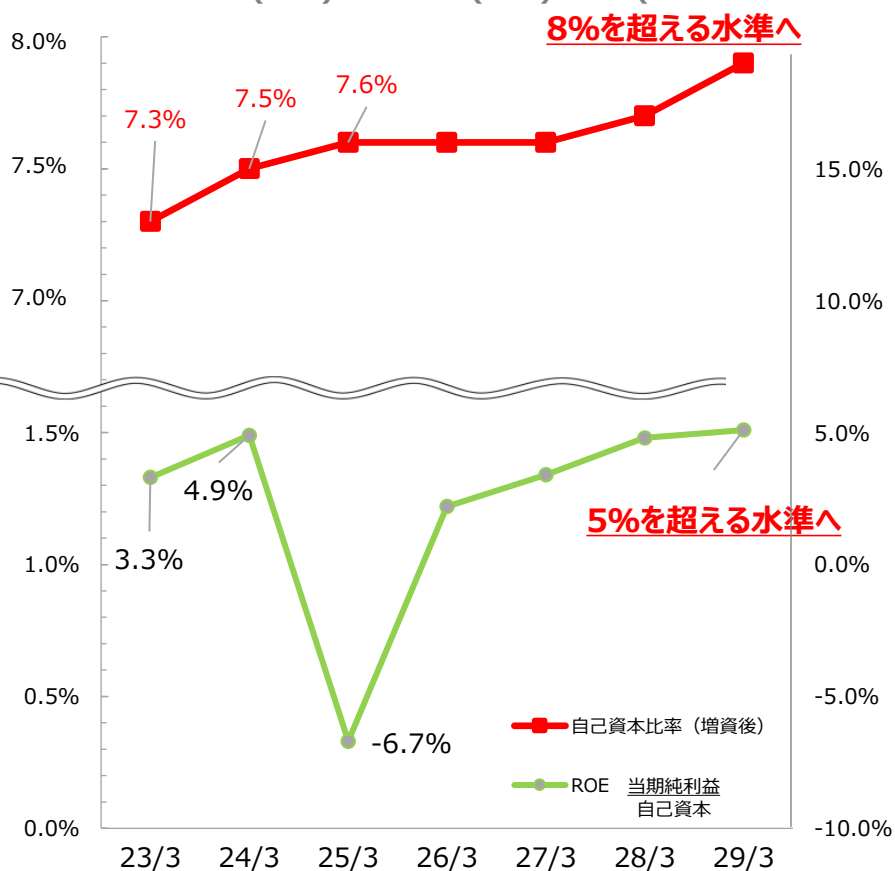
## 一過性の赤字を計上するも、26/3期よりV字回復！



- ・ 2025年3月期は**前向きな投資**に伴う、**一過性の費用を計上**し ▲15億円の赤字の見通し
- ・ 次世代バンキングシステム導入による、業務の効率化・高度化、および「SHINふくぎん中期経営計画」に掲げる施策の実行により、**収益力の向上**を目指します
- ・ 「SHINふくぎん中期経営計画」の最終年度である2029年3月期には**本業収益20億円以上、当期純利益13億円以上**の**V字回復**を見込んでいます

## SBI地銀ホールディングスによる20億円程度の第三者割当増資を実施！ ～ 地域への積極的な資金供給により地元福島の実業に貢献 ～

自己資本比率(左軸)およびROE(右軸)の推移(イメージ)



### 増資の目的

「ビジネスモデルの転換」を図る前向きな投資により一時的に減少する自己資本を補い、地元企業に対する「事業者支援」や住宅取得を後押しする「資産形成支援」など貸出金の供給に積極的に取り組みます

### 自己資本比率の見通し

- 24年3月期、収益の積み上げにより、7.5%へ上昇
- 新中期経営計画の推進によるお客様利便性の向上  
貸出金を中心としたストック収益の拡大  
および 本第三者割当増資により  
最終年度**8%を超える水準**を目指します。

### ROE (当期純利益 / 自己資本) の見通し

- 健全性を維持しつつも、収益力の拡大により、  
最終年度**5%を超える水準**を目指します



# 5.決算の予想および今後の見通し

- 2024年度（2025年3月期）は、次世代バンキングシステム導入による前向きな一過性の費用が見込まれ、▲15億円程度の当期純利益を見込んでおります。
- 2023年度（2024年3月期）の配当は、予定通り1株あたり5円とさせていただきます。2024年度（2025年3月期）の配当も、1株あたり5円を予定しています。

## 2023年度（2024年3月期）決算予想

(億円)

		22/3月期 実績	23/3月期 実績	24/3月期 実績	25/3月期 予想
単 体	経常収益	107	105	109	105
	経常利益	7	10	14	▲15
	当期純利益	8	7	11	▲15
連 結	経常収益	131	132	133	131
	経常利益	7	11	11	▲14
	親会社株主に帰属する 当期純利益	8	8	8	▲15

【2024年3月末現在】

本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525（代表）
設立年月日	1922（大正11）年11月27日
資本金	186億円
株主数	14,773名
従業員数	592名（うち正社員444名）
店舗数	57店舗（5出張所、2リムション°ラザ、 10-ン°ラザ、1ネット支店含む）
預金残高	7,987億円
預かり資産	1,094億円
貸出金残高	6,184億円（私募債含む）
自己資本比率	7.52%（単体）、7.89%（連結）
金融再生法 開示債権比率	1.88%
連結子会社	(株)ふくぎんリース&クレジット（2021年4月1日合併） (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

**（お問い合わせ先） 株式会社福島銀行 総合企画部 寺島達也、金成洋輔 TEL：024(525)2525 FAX：024(536)5338**

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績に影響を与える不確実な要因によって将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略や業績など、将来の見通しに関する事項には、一定のリスクや不確実性等が含まれております。